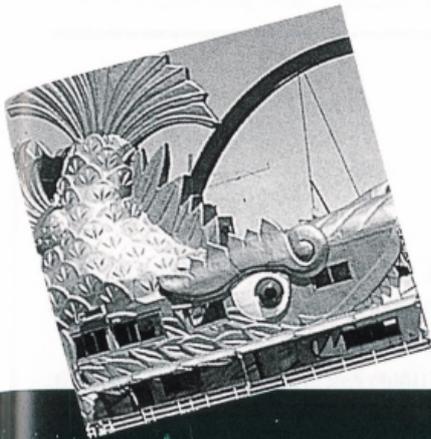


緑友会コミュニケーション誌
1995年5月発行 No.

87



名古屋港をめぐる遊覧船・金鯱号



第28回 全国印刷緑友会名古屋セミナー

FRIENDS OF GREEN

フレンズ オブ グリーン

 全国印刷緑友会

第28回全国印刷緑友会

名古屋セミナー

と き：1995年2月18日(土)

と ころ：名古屋・愛知芸術文化センター

従来にはなかった 新しい手法によるセミナー

第28回全国印刷緑友会名古屋セミナーは名古屋而立会の主管により、平成7年2月18日(土)愛知芸術文化センター小ホールにおいて、33グループ、282名が参加して開催された。

午後1時30分からの開会宣言に先立ち、阪神大震災の犠牲者への黙祷を行いました。名古屋セミナー牛田実行委員長の歓迎のことばに続き、緑友会利根川会長より阪神大震災にあわれ大変な時期でありながらも参加された神戸印刷若人会の方々に、心から激励の言葉を送られました。



午後2時20分より、セミナーが開催された。印刷業界の抱える課題や今後のことを劇と講演を織り混ぜたオムニバス形式で、舞台の上で演ぜられました。舞台上には、テレビで活躍されている俳優、女優さんに混じって名古屋而立会のメンバーも名演技を披露してくれました。

第1部「会社は誰のもの」はバーの場面で印刷会社の社員が会社に対する不満をぶちあげ、会社の将来に疑問を感じ、先輩社員に問いかけ

るところからはじまる。経営者に会社の将来を問いただし、会場のみなさんに投げかけるという内容でありました。

第2部の「印刷のなくなった日」は、10年後の印刷物がどうなっているかを考えたストーリーでマルチメディアの発達で買物はすべてテレビショッピング形式となりチラシがなくなるという内容です。印刷業界に携わるものには、ドキッとするような鋭い視点をとらえ、会場のメンバーの方々に、注意をうながし、今後の印刷の進むべき道のりを指摘していました。

従来にはなかった新しい手法によるセミナーは、2時間半という長い時間を感じさせない有意義なセミナーとなりました。

午後6時30分よりの懇親会は、場所を中日パレスに移して、女優「福田知鶴」の司会により始まり、全国の緑友のメンバーより集まった義援金約660万円を利根川会長より神戸印刷若人会の方へ手渡されました。わずかな励ましですが、きっと復興されることを願いますと結ばれ、名古屋セミナーは終了しました。



「会社は誰のもの」

木野瀬 吉孝 (名古屋而立会 会長)

このホールに入られて皆さん不安な気持ちになられたことでしょう。また、名古屋は何をしでかすのか、おまけに講師の名前を聞いたら而立会のメンバーで、はまったな という気持ちで座っていらっしゃると思います。

さきほど司会の方からどうしてこういう劇の上演になったかという経緯を説明しましたが、再度説明したいと思います。

昨年私どもは例会を月1回で持っていましたが、幹事会で何度も何度も協議を重ねて例会の内容を決めて実行しております。その中の1つが、劇を上映してそのテーマを基に講師を決め、お話しを聞こうと試みました。テーマは相続税でした。相続税というと、普通自分が損をしない・兄弟で争い事が起きない相続税でありたい。そんなセミナーは沢山あると思いますが、そういう観点ではなく、あくまでも会社経営の立場から会社が困らない相続、また従業員が不安にならない相続とはどんなものか、テーマにしまして上映してみました。われわれ経営者の目からみた相続というものが実際に理解できたと思いました。

而立会のメンバーは経営者のたまご、ないしは経営者であります。この経営者が会社のことをまた、従業員のことを考えなかったらどうなるのか。ということでその後もそんな例会を沢山もちました。今日お集まりの緑友のメンバーの方も同じ様な方ばかりだと思います。今の劇をご覧になって、従業員の夢って何だろう。そんなものを少しでも見つけていただけたらと思います。ここで1つお願いがあります。これから第2部、メインの劇とメインの講師を招いておりますが、全部評論家の目ではなくサラの目、それは名古屋の都合の劇ではないか、それは君の会社のことではないか。と言う目ではなくて、真っサラな目でおつきあい頂ければ、得るものは沢山あるはずで。さきほどの導入部分で、退職金の話がありました。退職金につきましても例会をもちました。ここで退職金の金額について、皆さんにアンケートを取りたいと思います。さきほど300万と言う話がでましたが、最初に先輩の社員が想像した

のが1千万。34年間働いて1千万の金額。ちょうどいいと思うか。そうでないか、挙手願います。ちょうどいいと思われる方が45名、低いと思われる方46名、高いと思われる方15名で、一番多かったのは挙手をされない方でした。これがわれわれの業界・われわれの世代の実態です。実際にアンケートをとりました。聞いて見ますと、而立会のメンバーの6割が会社の退職金のことを知りませんでした。これは残念だと思うと同時にそれだけ成熟されていない業界だということができます。幹事会でこの退職金について議論を進めていく中で、改めて自分の会社の退職金制度を調べたら200万だということに驚いて、今まで社員に仕事に対する意欲とか夢等を語ってきた自分が恥ずかしくなった。と話しておりました。それと同時に今からでも遅くないから、何か策を講じなければとんでもないことになるのではないかと発言しました。ある1人は、こんな不景気になって残念ながらうちには、新たに退職金の積立をする資金がない。と発言しました。そうしましたら200万の彼が、だからこの業界は退職金、すべてのものがあがらない。従業員の給与また福利厚生面で他の産業より圧倒的に劣っている状態だから、安心して安売りができるのだ。今印刷業界の価格破壊は、従業員の犠牲の上に成り立っているのではないか。そんな発言をしました。本当に驚きました。でも実際そうなのかも知れません。真剣にわれわれ



は会社の将来、従業員の将来を考えたら、とてもばかげたサービスはできるわけありません。何か支出を縮める方法があるから、安心してサービスができるのです。そんなことを考えました。退職金の話、印刷の価格の話等、様々なことを例会でやってきましたが、退職金制度は社員の将来・老後のことを考える重要なポイントです。退職金は制度そのものがなくてもいい、と言う発言もありましたが、しかしそれは将来に備えるためのものを払っている企業が言える台詞であって、とても今のわれわれの業界に当てはまる発言ではありません。退職後も地域活動ができるような会社の制度であったり、たまたま先日退職予定者と話しておりましたら、彼は地域でいろいろな活動をしていて、退職後も仲間がいるから、何とかやっていけるのではないかと。とかくわれわれ経営者は、自分さえ地域の代表でいろいろな活動をしておれば、社員には会社の仕事に専念してくれという風潮がありますが、もってのほかだと思います。自分最後の人生、それを充実させるためにも社員にそんな余力も与える工夫が大事だと思います。私事で大変恐縮ではありますが、卒業後、日本紙パック商事と言う紙の代理店に5年間働いておりました。その後昭和54年に自分の会社に戻ってまいりました。一部上場の会社に比べて、2倍も3倍も働く社員ばかりでした。だけど給料は低い、福利厚生はまずい、休日はやっと80日そこそこという実態にで悪戦苦闘しましたが、改善できませんでした。休日を増やすのも年間1・2日増やすがやっとでした。そうこうしているうちに昭和60年、先代の社長が亡くなりました。二人で話し合ってきましたが、どうしようもない実態は変わりませんでした。

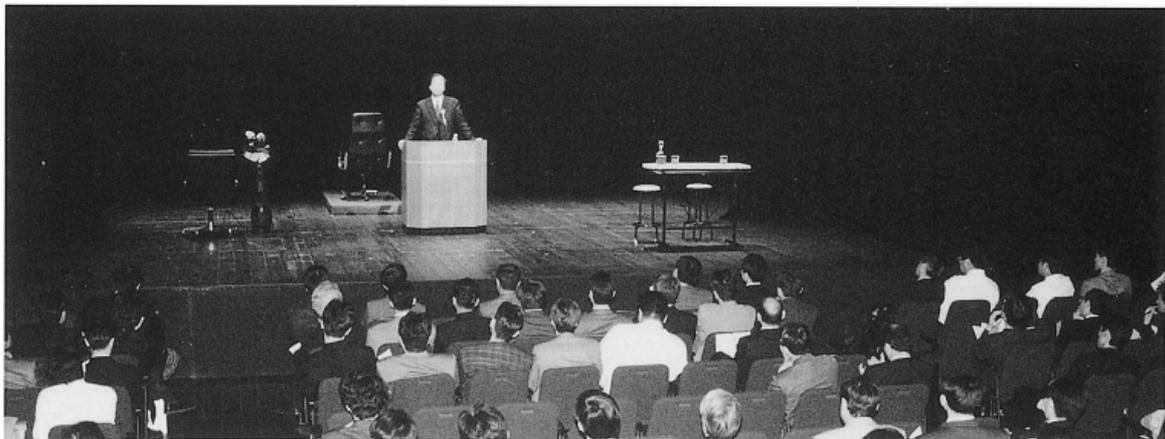
その年、初めて四大を卒業した学生を800万の予算をかけて募集したところ、親の反対を押し切って来てくれた社員が、5年後10年後同じ卒業生と比較した時、恥をかかない会社にしてあげなくてはいけないと思いました。わが社も皆さんの会社と同じだろうと思いますが、非常にロスの多い会社だと思います。それを縮めることによって待遇改善、時短ということ以外と進むと思います。時短経営者が与える者ではなく、従業員が獲得するものという発想を一生懸命果たしました。獲得をして増やすことで利益の上がる会社になると思います。おかげさまで獲得して5・6年前には102日を突破しました。そしてその年の初めの印刷組合の新年の御礼会で、わが社の休日は最近どんなもんですかと聞かれ、

102日だと言いますと、すごいですね。今印刷業界で100日を超えているところは少ないですよ。立派だと言われましたが、その会社は115日です。完全に見下されています。一年発起しました。去年から117日にしました。しかし、売り上げは落ちません。利益も落ちません。従業員の頑張りのおかげです。やろうと思えば絶対できるし、やれるんです。いろいろな事をいっぱいお話してきて考えてきましたが、私が体験したことを話するのが一番いいと思い、以上のような話を考えました。われわれ中小企業を経営しているものは、とかく自分の会社を卑下しやすいものです。こんな程度の規模だからこんな給料でいいだろう。こんな程度の規模だからこんな給料で使える社員がいいだろう。そんな発想に陥りがちです。しかしこんな程度の会社だから、これくらいのお金を出して働いてくれる社員に報いよう、また優秀な社員を集めてもっともっと企業を活性化させよう。そんなことは少ない人数で達成できるものだと思います。いわゆる会社は法人であります。私は司会の方が紹介してくれましたように、地域活動も一生懸命やっているつもりです。それはなぜか。われわれ中小企業の経営者はとすれば、会社イコール社長という目で見られます。どんな立派な会社でも、社長の人格によって、従業員もみじめになります。そんなみじめな気持ちにさせない様な工夫が必要だと思います。このセミナーをもつに当たり、いろいろ緑友の資料を調べましたところ、緑友が結成された時の注意書の中に、印刷あり、文化あり、との業界スローガンにあるように、印刷業が一国の文化の担い手として教育に或いは産業の発達等経済的分野に絶対不可欠のものであることは、印刷工業発達の足跡をみるまでもなく明らかであります。特に戦後マスコミの異常な発達と各産業のピーアール活動の活性化は印刷のもつ社会的経済的使命をますます重いものとししました。われわれ印刷業者はこの重大な社会的使命に徹し、幾多の困難な問題を山積する中であって印刷業の健全な経営に日夜心を砕いているわけですが、現実には文化財生産者としてはあまりにも貧困な状態におかれています。全国印刷界の指導者たちによってこの貧困な実態を打ち破るべく印刷文化展が創設され内外のピーアールにつくし、その後中小企業印刷界を中心としておこった、調整組合活動は経済的な面からこれを解決しようと、全国的な規模で進められ、すでに多くの成果を上げて参りましたが、委託受注産業と

しての宿命はすでに需要化の隷属的地位を生じ、業界の実績確率を地位の向上を疎外しています。この現実を直視するとき、印刷界を真に文化の担い手としてわれわれ若き印刷人の生命を打ち込み、骨を埋めるにあいひとしい仕事の場とすることは、若き世代に課せられた使命ではないかと思うのであります。云々とあります。これはもう、何年前でしたでしょうか。37年も前の設立書であります。これを読んでいて不思議に思ったのは、今でも使えることです。確かに若干の進歩はありますが、ほとんど変わっていません。それにわれわれ会社の従業員の思いをうちこめば、もっともっと、この趣旨というのは貫かれる、そんなふうにあります。1つ提案があります。今名古屋而立会では企業間の見学とか何かわからないことを先輩の企業に聞きにいったりしています。去年もフィルムの保存方法を先輩の而立会のメンバーのところへ行きましたところ、わが社の社員に丁寧な教えて頂、その問題は解決しました。逆に取り引きのない社長さんから電話がありまして、うちのオペレーターがお宅と同じ機会に悩んでいるけれど、相談に乗ってもらえないかということに来ていただき、見学をしていただきましたら、この若いオペレーターはわが社の従業員と非常に親しくなりました。広い意味で言えばわが社の社員も他社の社員も業界の宝です。その宝を育てる教育ができないかと考えております。この緑友の場でこれができないだろうかと思っております。あまりにも近いと教育をさせたくても、情報が漏れるのではないかと心配ですが、遠くのところの会社へ研修に行けば、いいところを学んだり足りないところを補ってくれると思っております。ネットワーク作りはそんなところにあると思っております。緑友のネットワークをそんなふうにかかせばもっと楽

しくなっていくと思っております。また、生き生きしたものになっていくと思っております。

印刷物というのは文化の担い手、文化のパロメーターと言われております。それと同時に印刷物は優しいもの、優しくなくてはいけないと思っております。よく社員に言いますには、名刺等の受注をすると、千円であったり、2千円であったり、非常に安い物であります。明日から会社を起こそうとする人にとっては、その2千円の名刺が宝であります。それを手にした時から、そこへ行こう、ここへ行こうと夢が広がってくるのです。それを受け止めてやれば、売上げ云々関係なく名刺を作る意味が出てきます。そんな優しさを計りあえる企業作りを目指したいと思っております。今日神戸の被災の話が何度も出ておりますが、而立会でも先日話し合いました、百万用意してお送り致したいと思っております。こういう優しさも経営につながっていくと思っております。以前シベリア抑留者の方からこんな話を聞きました。シベリアで抑留されていて日本兵、ドイツ兵と10人の班に分かれていて、食料は1日まとめて少しのパンが与えられたそうです。日本兵はそれをきちんと等分したそうです。ドイツ兵は11等分して、残りの1枚は体の弱っている人に与えたそうです。飢餓の状態でもそんなことができる人間性が素晴らしいと思えました。今回の神戸の義援、もちろんそんな気持ちが一番大切だと思っております。それと同時に印刷物というのはデザインがあつていろいろなところをリレーしてきます。能力の差もあります。それを埋めあうのも11枚目のパンをみんながどれだけ持っているかということです。そんなことも含め、社員と1つ1つ語り合せて、社員が夢の持てる会社作りをしていただきたいと思っております。



「印刷の無くなった日」

岡田 吉生（名古屋而立会 緑友会常任幹事）

製本屋でもないうちが入れてどういうことがおきているかという、それを軸に匂いをかぎわけてデザイナーさんは来るわ、編集社さんが来るわ、最近では音楽家さんまで来ました。宣伝もしていないのに、匂いで来るのです。ですから手段はハードウエアで、そのためにぼくはその作り手の、先に西川さんはやられていて時代が早すぎて、問題意識をデザイナーさんももっていないくて、DTPそういうことをやることによって、作り手の方が集まってくる。これからはマルチメディアというのがありますが、メディアというものは発達します。

中に載せるものはどんどん足りなくなってきました。たとえば、社歌を作るのにサザンオールスターズの歌を使うわけにはいきませんし、マルチメディアのバックミュージックにユーミンの曲や竹内まりやの曲を使ってもいいですが、いわれますし、お金を取られます。ですから、今CDがいろいろ出ている、ビートルズだけでもいろいろなプレスがあったり、安いのがあって重複しています。なぜかという、メディアが発達して中に載せるソースがないのです。

これからは作り手の時代で人材の空洞化が一番こわいのです。下手でもいいから作り手・送り手になる工夫をしていかなければなりません。そういったことで作り手の方がどんどん集まってきます。作り手の集団の名前を「バド」と言っています。バドの中にこともあろうに名古屋而立会の池田哲朗君もその仲間です。彼の会社でそういうコンピュータによる制作をしていこうということで、池田さんとその社員の方（新しく入られた方）が来まして、うちで勉強して帰られたわけです。会社で実際に作られるようになりました。新卒は即戦力になります。

これからの下手でもいいから作り手だということ。フリープレスということがわからな



いことがありまして、製本とか加工のことを後行程と印刷会社の方は言われますが、実はフリープレス制作こそが印刷業であるとなってます。それから印刷業がどうなるか、ある種の決心ということがこのほど聞かれるようになりました。半年前、さよなら写植、さよなら製版、さよなら電算写植、さよなら版下、さよならセット数、まで塚田さんが言っておられます。それから今回のPAGE 96でもすごい人だったです。東京とまではいきませんが名古屋の満員電車みたいな混み方でした。地震の直後に森沢さんがクォークエクスプレスを入れたということで、大阪まで行きましたが、森沢さんが入れられたということはこの方向でやっていこうと決心されたからです。大阪に行ったついでに弟の所へよってきましたが、その弟が言うには、この10年でやった方がいいことが3つある。マック・TA・葉書を書くといいということです。

カラープリンター付きで25万であるということです。日本橋で買ってきました。日本橋へ行って気が付いたことがマッキントッシュがないのです。去年5万台売れた中で印刷業界が1万台買ったという話です。そのマッキントッシュがないのです。どういうことかという、ウ

インドウズがいいかマックがいいかは関係ないのですが、短期的にみた5年間はウインドウズです。たとえばコンピュータやファクシミリはオフィス情報機器という名前で売り出しています。それはマックをつなげるのは大変なことです。ウインドウズだと標準装備できています。ですから、お客さんの方もどンドンウインドウズを入れているわけです。今マルチメディアを理解してこれから商売にうって出よという社長さんもマルチメディアという時代は、心の時代だとか言っている人はたぶんコンピュータはおたくが使うとか女子どもが使うとか特殊な人間がゲームを楽しんでいるとか思っているわけです。

だけどもマルチメディアの時代というのは、そういった人を特定のマーケットではなく、マルチメディア一儲けしようと思っている社長さん、あなたもマーケットの一員なんですよ。コンピュータを使っている方をおたくというえん罪に封じ込めると、その会社は10年も20年も遅れると思います。もっと言うと、会社にコンピュータを導入するのにコンピュータ技術者を雇い入れないことです。社内に貴重な人材がいます。製版のプロとか、焼付けのプロとか、そう言った方がやられるのが一番いいです。時代に追い付いていけないから、今までコピーを売っていたのが、パソコンを売るからOSの勉強をするのは無駄です。

マルチメディアというのはテレビなのです。テレビには心がないという人がいまだにいるかも知れませんが・・・

ネットワークのことを話す時、技術の話をしてはだめです。どんなハードウェアがいいのか、ここでシステムをつなげるとこんな苦勞が、こんな技術がいるかと言うことを、それはコンピュータにだけ見られる特殊な例です。たとえば無線通信をしている人が一晩中相手と無線通信をしている状況がコンピュータネットワークの中で行われているのです。職業であるならば、その中心は仕事が話題であるということです。コンピュータを使っても仕事が話題です。普段の生活だったらコンピュータを通じて生活が話

題です。それをコンピュータに強い人が幅をきかせているのです。

コンピュータだから心がないとか、ハイテクだから心がないとかではなくて、軸が違うのです。縦軸に心があって、横軸にテクノロジーがあるとします。両方兼ね備えた使い方もあります。反比例心が増えれば技術が引っ込む。技術が増えれば心が引っ込むということではなく、心業体とよく似たもので、心と業です。体はどうすればいいのでしょうか。

コンピュータというのは自由の象徴というところがありまして、在宅で勤務されていたり、能力はあるけど勤められない主婦などが家で仕事をしています。私の話の中で印刷業界のことで基本的な考え方は、チラシはなくなります。チラシは読んだらゴミになります。やはりお客様に最善策を提供する、情報を隔離してまだこの情報を知らせてはまずい。当座はこれで設けよう。でも基本的な大きな流れとしてお客様に最善策を提供する方法は変えてはいけないと思います。ですから、チラシではなくてほかのメディアが有効だと思います。チラシというのは販売促進の手伝いをしているのです。お客様が販売促進、チラシのかねてるテレホンショッピングをしたいとなったら、それに業態を変えていくことが企業の存続する道だと思います。そのためには大きな機械とか捨てさらない時代かもしれません。

お客様を情報から隔離して、チラシはどんどんたまってしまいます。公害処理産業とか、ゴミを処理する産業、これからは産業廃棄物が出たりすることが世の中の為にならないから、処理する会社が急成長かという短期的に見たらそうですが、実は老廃物を出すこれからは存在しない時代になりますので、自社でそれは浄化するというしくみで、そういう会社だけ残ります。そうしたら、人がやったものを片付ける仕事はなくなってくるでしょう。自分のことは自分ですることです。

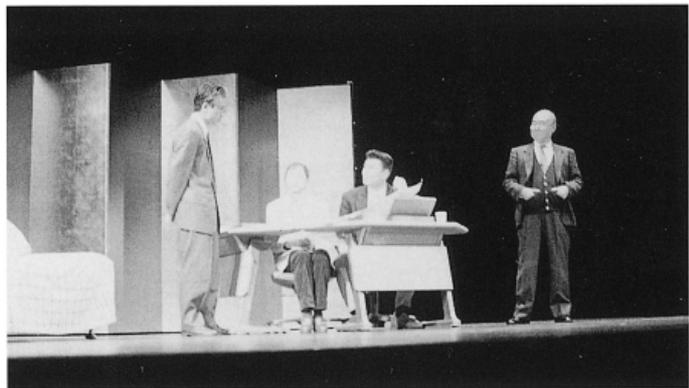
名古屋セミナーを終えて

名古屋セミナー実行委員長
牛田 信治

全国印刷緑友会の皆様、お元気ですか。この度は、2月18日に開催されました第28回全国印刷緑友会名古屋セミナーに、全国各地から大勢の会員の皆様にご参加いただき、本当にありがとうございました。全体で33グループ、262名の方のご参加をいただきました。

先のセミナー開催地福岡にて、福岡印刷若葉会の方からセミナー旗をお預かりして、この一年間ずっとこの日を待ち続け、どのようなセミナーにしていこうかと私ども名古屋而立会の間でも種々議論を重ねてまいりました。

私たちが毎月行っている例会を見ていただくことで、緑友のメンバーの人たちに何か役立ててもらえることが少しでもあればという思いに駆られ、スケールアップした形での小劇場の利用、および劇団員の登用という形をとりました。しかしながら基本的な手造りという線はくずさず、シナリオ作成、講演の講師、舞台設営などは総て而立会会員の手で行われ、当然のことながら、セミナー当日は而立会の2月例会として（偶然、18日は定例例会開催日に同じ）、全員登録をし、各役割分担に従い、セミナー進行をすすめてまいりました。



当日は心配していた天気も好天気となり、まず一安心をし、10時過ぎには利根川会長も会場入りをされ、リハーサルを一通りご覧になられた後、すぐ義援金の打合わせに入り、皆様の来られるのを一緒に待ちました。

今回のセミナーは私たち而立会にとっても記憶に残るセミナーとなり、とりわけ阪神大震災発生による各支援の動きに合わせ、緑友会の結束の力で、大きな被害を受けられた神戸印刷若人会に対する温かい手が差し伸べられた光景を目の当たりにして、改めて緑友会の素晴らしさを感じることができ本当にセミナーを設営させていただいたことに感謝の気持ちで一杯です。セミナーは学びの場所であり、会の行事をしめくくる大切なイベントですが、今回どれほど皆様にお役に立てたのだろうかと思うといささか不安な気持ちが込み上げてきますが、設営させていただいた中で沢山の学びを得ることができたと思っています。



涼しげに演じていた劇団員の人も普段のロングラン公演とは異なる一回こっきりの公演のため練習中も不安で一杯だったと後日談としてもらわれていました。「印刷のなくなった日」のチラシ大好き奥様は初めての舞台経験だったとか、長ゼリフの常務は全く印刷とは無縁の人だったとか、私たちの分からないところで個々にそれぞれ思い入れを持って劇に臨まれ、公演が終わった時は、安堵感が顔にみなぎり本当に嬉しそうな表情で一杯でした。私たちも思いは同じで、それぞれ役割分担を持ちつつも、お互いに助け合って協力していく姿勢がまざまざと伺え、セミナーを何とか成功させたいという気持ちが十分に伝わってきて、実行委員長として本当に感謝の気持ちで一杯になりました。

今回、名古屋セミナーを担当させていただき、私を含め、名古屋而立会会員の全員が、多くの

ことを学び、イザという時には結束する力を持っていることを改めて知りました。同じように、緑友会という全国組織の素晴らしい仲間の集まりが生み出す結束の力も、今回、義援金という形で大きく示され、緑友会がより大きな輪となっていくのを感じ、今後、益々会が発展されることを願っています。

神戸の皆さん、頑張ってください。岐阜翠陽クラブの皆さん、全員登録ありがとうございました。金沢の皆さん、次期セミナーのご成功を祈っています。緑友会の皆さん、本当にありがとうございました。

以上をもちまして、セミナーを終えてのお礼のことばとさせていただきます。



感謝の言葉を述べる神戸印刷若人会 柴田幹事長

全国緑友会から寄せられた 『友情の輪』

阪神大震災義援金 7,015,713円が
神戸印刷若人会に贈られた。

全国印刷緑友会の各グループより、多くの義援金が寄せられました。

神戸印刷若人会の会員には、幸いにも死傷者も出ず安心いたしました。各会社においては建物の倒壊等で、損害が多いとお聞きしています。

どうか一日も早く、神戸市そして各企業の復興を期待いたします。

阪神大震災における お見舞金のお礼

拝啓 先日の名古屋セミナーにおきまして、当地の大震災のお見舞に全国の緑友の皆様より多額の義援金を頂きまして厚く御礼申し上げます。

この度、震災により阪神間は大きな被害を被りました。神戸印刷若人会もかなりのメンバーが大なり小なり被災致しましたが、不幸中の幸いに一人の死傷者も出ず、ほんとうに運が良かったと思っております。

セミナーの開かれた2月18日の時点で、20万人以上の市民が住居を失い避難所生活を強いられ、経済活動もストップしたままでございましたが、若人会はいち早く皆様の温かいご援助を賜わり、改めて緑友の友情と固い絆を実感致しました。重ねて厚く御礼申し上げます。

いつ頃、どのように復興出来るのか、全く目処は立っておりませんが、神戸で生まれ神戸で育ってまいりました我々は、固い決意で神戸の再興に努力していく所存でございます。どうか今後とも皆様の暖かいご支援とご協力を賜わります様お願い申し上げます。 敬具

神戸印刷若人会
幹事長 柴田 平寿



神戸印刷若人会 柴田幹事長に利根川会長より義援金が渡された

名古屋而立会ときふ印刷翠陽クラブ 交流ゴルフ大会開催

去る、3月25日(土)岐阜関カントリー倶楽部で6組24名(両会より各12名)の参加、当日小雨の降る中で、ゴルフ交流会が行われました。

きふ印刷翠陽クラブでは、事業計画の中で、名古屋而立会との交流を計画され、昨年より、相互の例会に参加し、本年度最後のイベントとして、この交流ゴルフが開催されたものです。

優勝は、西川井勝氏(而立会)、準優勝には小野木氏(翠陽クラブ次期会長)、団体戦は各組対抗戦を行い4対2で翠陽クラブの勝利となりました。

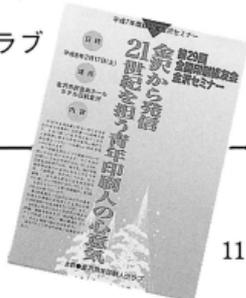
プレー後、木野瀬而立会会長の乾杯で表彰式と懇親会で親睦を深め、最後に小野木副会長がお礼の言葉を述べ次回第二回大会を約束し楽しい一日を終えられました。



予告

第29回 全国印刷緑友会 金沢セミナー

開催日/1996年2月17日(土)
会場/金沢市民芸術ホール
ホテル日航金沢
主管/金沢青年
印刷人クラブ



第39回 全国印刷緑友会 山形総会

開催日/1996年5月25日(土)
会場/天童ホテル
登録費/23,000円(宿泊費込)
主管/山形印刷研修会





全国印刷緑友会

FRIENDS OF GREEN

FRIENDS OF GREEN No.87

〒113 東京都文京区湯島2-4-4

TEL.03-3811-1111(代)

発行人 利根川 政明 (文京緑友会)

編集人 ぎふ印刷翠陽クラブ
